

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の2年目)

1. 研究課題

人の分類と人種化に関する国際比較研究

A Comparative Study of Classification and Racialization

2. 研究代表者氏名

竹沢 泰子

Takezawa Yasuko

3. 研究期間

2020年4月-2023年3月(2年目)

4. 研究目的

本研究は、ある社会や地域の人間が他者をどのように分類し、名づけ、また人種化するか、それがどのように社会経済的不平等を生産・再生産するかを考察する。人の分類や人種化においてどのようなマーカー（目に「見える」身体的相違であれ、「見えない」神話的な身体的特徴とされるものであれ、あるいは差異と認識されるものの文化的具現であれ）が動員されるかを吟味する。

具体的には、ひとつは、『環太平洋の移動と人種』に加筆修正を加えて英語版を作成する。その際、アジア型の人種化と環大西洋型の人種化が、人の移動によって遭遇し、絡み合う交渉の場として環太平洋を捉えなそう。第二は、フランスのEHESP-TEPSISとの日仏共同研究をさらに発展させ、南北アメリカと異なるヨーロッパと日本の共通性、また互いの差異を考察する。第三は、若手研究者らと一緒に「批判的人種・エスニシティ研究」を進める。第四として、自然人類学者らと共に、生物学的・文化的双方の観点から人間の「ちがい」を解明し、差別根源のためにどのような一般社会への説明が有効かを共に考える。

This project aims to examine the ways in which people in certain societies or regions categorize others, label and racialize them - resulting in the production and reproduction of various forms of socio-economic inequality. It investigates the markers mobilized to categorize and racialize others, whether they are visible phenotypical differences, invisible and mythical bodily features, or cultural embodiments of perceived “differences,” which may relate to the unequal distribution of resources and power. The project addresses how various processes of racialization are reproduced or transformed over the years.

5. 本年度の研究実施状況

本年度は、フランス EHESS の TEPSIS との共同研究を進め、オンラインにてフランス側と日本側の執筆者・コメンテーターを交えて研究会を重ねた。そのうち5回の座談会は、論文集にも掲載した。2)『環太平洋地域の移動と人種』の英語版を出版するにあたり、共通フレームをより明確にするための研究会を行なった。3) 自然人類学者と文化人類学者による「人間の「ちがい」と差別」について共同研究を行なった。4) 2018年秋に客員教授として受け入れた Stephen Small (UC バークレー) 教授とミックス・レイスに関する共同研究を行なった。

6. 本年度の研究実施内容

- 2021-05-16 批判的エスニシティ研究 若手研究紹介 司会 竹沢泰子 人文科学研究所
Walter Mignolo, *The Darker Side of Western Modernity: Global Futures, Decolonial Options* の書評 発表者 内野クリスタル 同志社大学グローバル・コミュニケーション学部
Eiichiro Azuma, *In Search of Our Frontier* (2019) の書評 発表者 山中美潮 同志社大学, アメリカ研究所
- 2021-07-16 日仏論集座談会 統治と学知 司会 竹沢泰子 人文科学研究所 被差別部落へのまなざしと生権力 発表者 関口 寛 四国大学 日本統治下台湾における植民地人類学 発表者 アルノ・ナンタ フランス国立科学研究センター コメンテーター 坂野 徹 日本大学経済学部 コメンテーター ジャン=フレデリック・ショブ フランス社会科学高等研究員
- 2021-08-06 日仏論集座談会 前近代と近代の連続性/不連続性 司会 竹沢泰子 人文科学研究所 「人種」と「文明」 明治期の教科書記述にみる世界認識の変容 発表者 竹沢泰子 京都大学人文科学研究所 バスク人とユダヤ人の間で 発表者 ジャン=フレデリック・ショブ フランス社会科学高等研究員 コメンテーター クロード=オリヴィエ・ドロソ パリ第7大学 コメンテーター 平野 千果子 武蔵大学人文学部
- 2021-08-23 批判的エスニシティ研究 若手研究紹介 司会 竹沢泰子 人文科学研究所
Cedric Robinson, *Black Marxism* (1983, 2000) の書評 発表者 山田 優理 UCLA
- 2021-09-08 環太平洋英語版 共通テーマをめぐる討論 発表者 竹沢泰子 人文科学研究所
発表者 平野克弥 UCLA
- 2021-09-13 日仏論集座談会 反人種主義の葛藤と展開 司会 竹沢泰子 人文科学研究所 両義的な反人種主義 発表者 クロード=オリヴィエ・ドロソ パリ第7大学 反人種主義と霊性 発表者 田辺 明生 東京大学 コメンテーター 池亀 彩 京都大学 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 コメンテーター ピエール・ブーレッツ フランス社会科学高等研究員
- 2021-10-06 環太平洋英語版 共通テーマをめぐる討論 発表者 竹沢泰子 人文科学研究所
発表者 平野克弥 UCLA 発表者 関口 寛 四国大学 発表者 徳永 勝士 東京大学医学系研究科人類遺伝学教室 発表者 土屋 由香 京都大学大学院人間・環境学研究科

2021-11-04 日仏論集座談会 分類する法 司会 竹沢泰子 人文科学研究所 近代日本の法的婚姻と人種論 発表者 長 志珠絵 神戸大学 20世紀フランスとイタリアにおける法的経験 発表者 シルヴィア・ファルコニエーリ フランス国立科学研究センター コメンテーター 松本 悠子 中央大学文学部 コメンテーター ライナー・マリア・キースー フランス国立社会科学高等研究院

2021-11-21 批判的エスニシティ研究 若手研究紹介 司会 竹沢泰子 人文科学研究所 研究紹介 発表者 小俣ラポー 京都大学人文科学研究所 発表者 西郷南海子 京都大学人文科学研究所 発表者 山下 泰之 京都大学人間環境学 大学院生 発表者 中尾沙季子 京都精華大学

2021-11-22 日仏論集座談会 遺伝的祖先と人種の解体/再生 司会 竹沢泰子 人文科学研究所 ゲノム情報から「私」の祖先を`選ぶ` 発表者 太田博樹 北里大学 DNA祖先検査は反人種主義に効果的な技術か 発表者 サラ・エイベル アイスランド大学 コメンテーター 竹沢泰子 京都大学人文科学研究所 コメンテーター ティモシー・コールフィールド アルバート大学

2021-11-26 ジェンダー・性差の研究 司会 竹沢泰子 人文科学研究所 動物における性差-霊長類を中心に- 発表者 清水慶子 岡山理科大学 歴史からみる社会システムのジェンダー化-企画展示「性差（ジェンダー）の日本史」を素材として- 発表者 横山百合子 国立歴史民俗博物館名誉教授 性差（ジェンダー）への文化人類学的向き合い方 発表者 中谷文美 岡山大学 コメンテーター 竹沢泰子 人文研 コメンテーター 海部陽介 東京大学総合博物館

2021-11-28 環太平洋英語版 共通テーマをめぐる討論 発表者 竹沢泰子 人文科学研究所 発表者 平野克弥 UCLA

2021-12-12 「江戸遊民の擾乱」の合評会 司会 竹沢泰子 人文科学研究所 コメンテーター 成田龍一 日本女子大学名誉教授 コメンテーター 内藤 千珠子 大妻女子大学 発表者 平野克弥 UCLA

7. 共同研究会に関連した公表実績

・Yasuko Takezawa and Stephen Small, March 2022, “Theorizing People of Mixed Race in the Pacific and the Atlantic,” *Social Sciences* 11(3), 124; 竹沢泰子×ジャン＝フレデリック・ショブ編『人種主義と反人種主義～越境と転換』、京都大学学術出版会・「江戸遊民の擾乱」の合評会(2021.12.12)

8. 研究班員

所内

竹沢 泰子、石井 美保、瀬戸口 明久、ティル・クナウト

学内

芹澤 隆道（東南アジア地域研究研究所）、山極 壽一（前総長・名誉教授）、松田 素二

(文学研究科)、徳永 悠(人間環境学研究科)

学外

斎藤 成也(国立遺伝学研究所)、海部 陽介(国立科学博物館人類研究部)、田辺 明生(東京大学文化人類学研究室)、陳 天爾(早稲田大学国際学術院)、木村 亮介(琉球大学医学研究科)、関口 寛(四国大学経営情報学部)、長 志珠絵(神戸大学国際文化学部研究科)、太田 博樹(東京大学大学院理学系研究科)、John Russell(岐阜大学地域科学部)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数				延べ人数					
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
学内(法人内)		14		1	3	4	36		2	9	12
		(8)		(1)	(2)	(2)	(22)		(1)	(4)	(6)
国立大学		3		2			3		2		
		(1)					(1)				
公立大学											
私立大学		14		1		4	26		1		12
		(11)				(3)	(20)				(9)
大学共同利用機関法人											
独立行政法人等公的研究機関											
民間機関											
外国機関		10					12				
		(2)					(2)				
その他 ※											
計	0	41	0	4	3	8	77	0	5	9	24
		(22)	(0)	(1)	(2)	(5)	(45)	(0)	(1)	(4)	(15)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
	うち国際学術誌掲載論文数			
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)				
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)				
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)				
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	1		1	
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)				

本年度発表された高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された論文

雑誌名	インパクトファクター (数値)	掲載論文数	掲載年月日	論文名	発表者名
Social Sciences 11(3)	2.3(citation score インパクトファクターに代わり近年よく使用されている指数)	1	R4.3	Theorizing People of Mixed Race in the Pacific and the Atlantic	Yasuko Takezawa and <u>Stephen Small</u>

本年度 共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名
竹沢泰子×ジャン＝フレデリック・ショブ編『人種主義と反人種主義～越境と転換』	竹沢泰子 ジャン＝フレデリック・ショブ	R4.3	京都大学学術出版会

11. 費目の30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

12. 次年度の研究実施計画

- 1) 自然人類学者と文化人類学者による「人間の「ちがひ」と差別」について共同研究を継続する。
- 2) 2019 年秋に客員教授として受け入れた Faye Harrison (イリノイ大学) 教授および田辺明生氏 (東京大学名誉教授) とともに、人種と人種主義の可視性・不可視性についての共同研究を継続する。
- 3) 若手研究者と「批判的人種・エスニシティ研究」を継続する。
- 4) 『人種主義と反人種主義～越境と転換』の合評会を 3 名の評者、森 千香子 (同志社大学)、石井 美保 (京都大学人文科学研究所)、安岡健一 (大阪大学) を招いて人文研アカデミーとして行う。

13. 次年度の経費

		開催回数	国内出張旅費 (延べ人)	支出予定額
国内旅費	研究会参加費			
	一般旅費	2	8	400000
海外旅費	渡航旅費			
	招へい旅費			
謝金 (講演謝金、研究協力者金、その他の謝金)				
消耗品等経費				
その他				
合計				400000

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

- 1) Yasuko Takezawa and Akio Tanabe eds. *Race and Migration in the Trans Pacific*, Routledge 2022 予定.
- 2) Yasuko Takezawa (guest editor), Special Issue: DTC and its Social and Ethical Issues (tentative), *Anthropological Science*, Tokyo: The Anthropological Society of Nippon.
- 3) 人文研アカデミーとして、7 月 10 日「東アジアの脱植民地化とジェンダー秩序」を人文研にて開催する。
- 4) 人文研アカデミーとして 2022 年 7 月 16 日『人種主義と反人種主義～越境と転換』の合評会をキャンパスプラザ京都にて、森 千香子 (同志社大学)、石井 美保 (京都大学人文科学研究所)、安岡健一 (大阪大学) の 3 名の評者を招いて行う。